

文教厚生常任委員会議会報告会実施報告書

日時	平成 27 年 10 月 22 日（木）14 時～17 時	
開催場所	明石市議会大会議室	
出席議員	班 長	梅田 宏希
	司 会 者	井藤 圭湍
	記 録 者	久枝 陽一
	そ の 他	楠本美紀 家根谷敦子 丸谷聡子 三好宏（文教厚生常任委員） 寺井吉広 出雲晶三（議会活性化推進委員）
参加者	民生児童委員協議会役員 会長以下 10 名	
報告事項	<p>【楠本副委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 明石市管内の高齢者に対する見守り関連事業について ● 明石市社会福祉協議会の活動 <p>【丸谷議員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 委員会視察報告 7 月 22 日：新潟県長岡市 23 日：群馬県高崎市 	
参加者意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 二つの事例を紹介してもらいました、明石と問題点も類似している。しかし明石は地域的に狭いので民生委員は動きやすいと思います。また買い物難民などは見られていない。将来的には可能性があると思う。 ● 朝霧ではふれあいサロンを地区社協が主催で行っています。民生委員の皆さんにも協力をしていただきました。 ● 各地域では自治会単位で訪問活動やふれあいサロンなどの活動が出来ている。 ● 自治会活動が希薄になってきているのでボランティアが安全安心を担っている。 ● 民生委員のやる気によって地域の雰囲気が変わるので人選がすごく大事。 ● ほほえみ会（ミニケアサロン）を立ち上げて食事会をやっている。スタッフは 10 名程度で参加者には 200 円を負担してもらっている。当初は嫌がる人も多く 5 名程度だったが今は 25 名になった。 ● 自治会単位で防災訓練を実施し車イスの人にも参加を呼びかけ訓練をしている。高齢者はほとんど参加している。自治会の役員が協力的に動いてくれる。 ● 今年の夏は、脱水症状にも気を付けようという活動で月に一回訪問した。 ● 民生委員のなり手が少なくて困っている。民生委員も高齢化している。 	

- 自治会役員と民生委員が連携をとるために顔合わせを行い防災などの項目について取り組んでいる。
- ヤクルト活動は続けていただきたい、携帯番号を交換していて連絡を密に行っている。先般も入院しているのを気づかなかったのがヤクルトを取っていないことからケアマネージャーと連絡を取り把握することが出来た。
- ケアマネージャーとの情報が共有することが大事なのだが連携が出来ていない。
- 二人暮らしの老老介護の方の名簿を出してほしい。
- 高齢者がどこに相談しに行っているのか解らない方が多い、公の場所で相談窓口を設けて欲しい。市民センターや、市役所などに設置を考えて欲しい。
- 「災害時要援護者台帳」と「ひとり暮らし高齢者台帳」の記載方法を考えて手続きの簡素化をして欲しい。同じことを何度も書く必要のないようにしてほしい。
- 「さりげない見守り、ゆるやかなつながり、ゆるやかな支援」をキャッチフレーズに活動している。
- 敬老のお祝い金を持っていった時に次のように言われました。「一人暮らしが辛い」「自分は必要とされていない」「頼れる人が居ない」「一週間誰とも話をしていない」。明石市の三台帳があるのですが、65歳以上の対象者ではあるが登録をされてない方の家には訪問をしない。台帳に登録されていない方を含む名簿を頂けたら事前の見守り、アプローチが出来るのではないのでしょうか。重度になってから見守りをするのではなく65歳以上になってから見守りを始めることが重要だと思います。
- 大蔵地区においてデマンドタクシーを実施しようとしたが実現できなかった。明石市においての交通行政をもう一度考え直していただきたい。福祉と交通行政を一体化して活かして行くことが重要。
- タブレットを活用した介護・看護において活用するとあるが単純な操作に絞れば高齢者にも十分活用してもらえる。
- 認知症支援として在宅介護をメインとして取り組むこととなっているが、そのためにも認知症初期集中支援チームを充実させてほしい。早期の段階で発見して本人・家族に説明をして適切な治療を行うことによって進行を遅らせることが必要。
- 認知症は在宅介護では限度があるので、グループホームの充実化が重要になってくる。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前に孤独死された方がおり、以来サロンを実施しているが参加者がなかなか増えない。 ● 緊急通報を付けていると夜中でも対応する必要があるため大変である。 ● 高齢者の台帳は登録された方には対応しているが、65歳以上で対象者でも登録されていない方がいる。老々介護の場合、お一人が亡くなられた場合の把握が難しい。また、お子さんとの同居の場合でもお子さんは昼間に働きに行っているため日中は独りになってしまう、この場合も台帳には載っていない。台帳に載っていない方の見守りをどの様にやっていくかが課題。 ● 災害時要支援者の台帳に登録すると民生委員が助けに来てくれると思っている方が非常に多いが、行政指導で自治会との連携を改革し強化してほしい。 ● 大きなマンションでは自治会が無く、管理組合に委託している所があるが、自治会が無い場合連携がとりにくい。管理組合と活動の調整ができるようにしてほしい。 ● 緊急通報システムで3名の協力員が必要なのだが、人選に苦労している。 ● ヤクルト配布の活動は継続して頂きたい。 ● 高齢者事業も見直しが多く敬老会が維持できなくなったため、75歳以上の名簿が入手できなくなった。行政から出してもらえないか。 ● 「敬老祝い金」を持っていくだけでも出会いの場となるので継続してほしい。 ● 6つの地域で一つの校区になっているので、広域になっているのでお年寄りには距離が離れていて行きにくい。出来れば各地域にボランティアの活動が必要だがなかなか実施できていない。ボランティアがいないので困難。 ● 老々介護の人も多いが、用事がないのに訪問するのは行きにくい。 ● 緊急通報システムの3名の協力員が必要となっているのがネックとなっている。 ● 認知症の件に取り組まなければならない、特に徘徊の問題が増えてきている。
--	--

明石市市議会議長殿

平成 27 年 11 月 4 日 上記のとおり報告します。

文教厚生常任委員長 梅田宏希